

学位論文審査基準と審査の体制

本学大学院文学研究科、大学院国際政治経済学研究科、大学院国際日本学研究科における、学位論文の審査基準と審査の体制は、次のとおりとなります。

1. 大学院文学研究科修士学位論文の審査について

本学博士前期課程に2年以上在籍し、所定の授業科目について専攻によって決められた単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査並びに面接試問に合格したものに修士（文学）の学位を授与する。

なお、中国学専攻においては、日本漢学に特化した所定の授業科目について、決められた単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査並びに面接試問に合格したものに修士（日本漢学）の学位を授与する。

（1）修士学位論文審査基準

①研究対象の適切性及び明確さ

研究目的及び対象が明確であり、かつ課題の設定が適切に行われていること。

②研究対象に応じた適切な研究方法

設定した対象や課題に対する研究方法が、適切かつ主体的であること。

③研究対象に応じた適切な研究資料収集と調査・分析

先行研究について不足ない知見を有し、論証の根拠となる資料の収集及調査が十分に行われていること。

④新しい知見の提出とそのための論証性

独自性・独創性ある結論が明示され、かつ客観的根拠に基づき明確な論証がなされていること。

⑤論旨の妥当性と論文作成能力

章立てや展開などの論文全体の構成が適切であり、かつ論旨に一貫性があること。また、確かな表現によって執筆されており、体裁が整っていること。

⑥面接試問における説明能力

面接試問において自らの論文を簡潔かつ説得的に要約でき、審査員の質疑に明確かつ説得的に回答し、自らの主張を維持できること。

（2）修士学位論文の審査体制

修士学位論文の審査体制は、主査1人・副査1人の2人とし、面接試問も同一の主査1人・副査1人の2人があたる。

2. 大学院文学研究科博士学位論文の審査について

甲種

本学博士後期課程に3年以上在籍し、所定の授業科目について専攻によって決められた単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文（甲種）の審査並びに面接試問に合格したものに博士（文学）の学位を授与する。

なお、中国学専攻においては、日本漢学に特化した所定の授業科目について、決められた単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査並びに面接試問に合格したものに博士（日本漢学）の学位を授与する。

（1）博士学位論文審査基準

①研究対象の明確さ

研究目的及び対象が明確であり、かつ課題の設定が適切に行われていること。

②研究対象に応じた適切な研究方法

設定した対象や課題に対する研究方法が、適切かつ主体的であること。

③研究対象に応じた適切な研究資料収集と調査・分析

論証の根拠となる資料の収集及び調査・分析が的確に行われていること。

④先行研究の精査

先行研究について十分な知見と理解を有し、論証の上で必要となる研究を的確に把握していること。

⑤新しい知見の独創的な観点

独自性・独創性ある結論が明示されていること。

⑥論理的かつ論証性の高い客観的な分析

章立てや展開などの論文全体の構成が適切であり、かつ論旨に一貫性があること。
また、客観的根拠に基づき明確な論証がなされていること。

⑦当該研究分野に対する学術的な価値と寄与

今後も継続して当該学問分野における研究を発展させることができる価値が見出せること。さらに自身が自立した研究者として、当該研究分野で将来的に活躍できる能力・学識及び研究姿勢が認められること。

（2）博士学位論文の審査体制

博士学位論文の審査体制は、主査1人・副査3人の4人とし、面接試問も同一の主査1人・副査3人の4人があたる。

乙種

博士課程修了者と同等以上の学力を有すると認められ、学位請求論文を提出して大学院の審査並びに面接試問に合格したものに博士（文学）の学位を授与する。

（１）博士学位論文審査基準

①研究対象の明確さ

研究目的及び対象が明確であり、かつ課題の設定が適切に行われていること。

②研究対象に応じた適切な研究方法

設定した対象や課題に対する研究方法が、適切かつ主体的であること。

③研究対象に応じた適切な研究資料収集と調査・分析

論証の根拠となる資料の収集及び調査・分析が的確に行われていること。

④先行研究の精査

先行研究について十分な知見と理解を有し、論証の上で必要となる研究を的確に把握していること。

⑤新しい知見の独創的な観点

独自性・独創性ある結論が明示されていること。

⑥論理的かつ論証性の高い客観的な分析

章立てや展開などの論文全体の構成が適切であり、かつ論旨に一貫性があること。
また、客観的根拠に基づき明確な論証がなされていること。

⑦当該研究分野に対する学術的な価値と寄与

今後も継続して当該学問分野における研究を発展させることができる価値が見出せること。さらに自身が自立した研究者として、当該研究分野で将来的に活躍できる能力・学識及び研究姿勢が認められること。

（２）博士学位論文の審査体制

博士学位論文の審査体制は、主査１人・副査３人の４人とし、面接試問も同一の主査１人・副査３人の４人があたる。

3. 大学院国際政治経済学研究科修士学位論文の審査について

修士学位論文の審査は、以下の基準及び審査体制に基づいて行われます。

（１）修士学位論文審査基準

①研究対象の明確さ

その問題を取り上げる意義が説得的に示されていること。

②研究対象に応じた適切な研究方法

問題設定に対する研究方法が適切であること。

③研究対象に応じた適切な研究資料収集と調査・分析

研究課題を解明するための各種資料の収集が適切に行われ、かつ調査および解釈が十分に行われていること。

課題分析能力が十分に示されていること、また分析プロセスの客観的妥当性が十分なこと。

④新しい知見の提出とそのための論証性

先行研究を十分吟味し、自らの研究の独自性が明確に示されていること。

⑤論旨の妥当性と論文作成能力

論文の主旨が論理的に一貫し、合理的な結論が引き出せていること。

論文全体の構成が論理的で、文章についても論理的・表現的に明解なこと。

また、各種引用資料に関する注記が完全なこと。

⑥口頭試問における説明能力

口頭試問において自らの論文を簡潔かつ説得的に要約でき、審査員の質疑に明確かつ説得的に回答し、自らの主張を維持できること。

(2) 修士学位論文の審査体制

修士学位論文の審査体制は、主査1人・副査2人の3人とし、口頭試問も同一の主査1人・副査2人の3人があたる。

※特定の課題の審査基準は、修士学位論文の審査基準に準じます。

また、特定の課題についての研究の成果の審査は、指導教授を含め本研究科の授業科目を担当する教員3人以上の出席する研究発表会において行います。

4. 大学院国際日本学研究科修士学位論文の審査について

本学修士課程に2年以上在籍し、所定の授業科目について決められた単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査並びに面接試問に合格したものに修士（文学）の学位を授与する。

(1) 修士学位論文審査基準

①研究対象の適切性及び明確さ

研究目的及び対象が明確であり、かつ課題の設定が適切に行われていること。

②研究対象に応じた適切な研究方法

設定した対象や課題に対する研究方法が、適切かつ主体的であること。

③研究対象に応じた適切な研究資料収集と調査・分析

先行研究について不足ない知見を有し、論証の根拠となる資料の収集及調査が十分に行われていること。

④新しい知見の提出とそのための論証性

独自性・独創性ある結論が明示され、かつ客観的根拠に基づき明確な論証がなされていること。

⑤論旨の妥当性と論文作成能力

章立てや展開などの論文全体の構成が適切であり、かつ論旨に一貫性があること。また、確かな表現によって執筆されており、体裁が整っていること。

⑥面接試問における説明能力

面接試問において自らの論文を簡潔かつ説得的に要約でき、審査員の質疑に明確かつ説得的に回答し、自らの主張を維持できること。

(2) 修士学位論文の審査体制 修士学位論文の審査体制は、主査1人・副査1人の2人とし、面接試問も同一の主査1人・副査1人の2人があたる。

※特定の課題の審査基準は、修士学位論文の審査基準に準じます。

また、特定の課題についての研究の成果の審査は、指導教授を含め本研究科の授業科目を担当する教員2人以上の出席する研究発表会において行います。